

日本の幼稚園行事について① なぜ運動会を行うのか？

子どもが初めて体験する集団生活、幼稚園。そこでは、毎日の園生活のほかにも、様々な行事がある。幼稚園では季節の移り変わりを感じられるように、また、古来の文化や風習を会得できるように行事が設けられています。

幼稚園生活において注目度が高い行事と言えば、夏祭り・運動会・お遊戯会などがまず挙げられるだろう。その他にも、保護者も参列する入園式や卒園式、幼稚園からバスに乗って遠出する遠足、秋の定番のお芋掘り、工作やお絵かきなどの作品の展示会、歌ったり様々な楽器を使って演奏したりする音楽会、冬の風物詩の餅つき、節分の豆まきなど、平均すればひと月に一つは何かしらの行事がある。楽しむことができる行事だが、それぞれの行事には子どもへの教育上の目的やねらいも含まれている。

今回は幼稚園に限らず、保育園や小中高の学校、時には大学や会社、地域においても開催されることもある「運動会」について詳しく見てみることにする。



参考資料1：運動だけでなく、挨拶礼儀や集団行動も学ぶ

運動会を行う理由やそれによって得られるものとは…

① 健康

「運動」が名前についているとおり、最大の目的は子どもに運動をさせることである。体を動かすことは健康に良い。成長期の子どもにとって、外へ出て遊んで体を動かすことは、体力をつけるための非常に大切な仕事である。運動することは気持ちいいことなのだ

ということにも気づき、自分から進んで体を動かそうとする意欲も育つ。

また、健康で過ごすことには運動以外にも、健康な体を作るための食事や健やかな生活を送るために身体を清潔に保つこともある。例えば、運動会の際に食べるお弁当やみんな揃って楽しく食べるという行為は心と体の健康に繋がっていく。運動をするために体操服に着替えることや汗をかいたらまた制服に着替えること。外から教室や家に戻ったときは手を洗うこと。毎日お風呂に入って身体を清潔に保つこと。運動をする以外にも、運動に関係するこれらのこともすべて、健康に繋がることである。

② 人との関わり

運動会は毎年行われるものなので、毎年の子どもの成長が感じられる。これは子ども自身にとっても、以前はできなかったことができるようになったり、かけっこが早くなったりなど感じるができる。例えば、最初は速く走れなかった子どもが、諦めずに練習を続けることでより早く走れるようになること。ブリッジや倒立などを練習してできるようになること。できることが増えていくことに子どもは達成感や成長、自立する感覚が得られる。諦めないで努力する姿勢や粘り強さにも気づける可能性がある。

親にとっても、運動会は子どもの成長していく姿がまじまじと分かる機会である。例えば、年少時の初めての運動会では泣いてしまったり、踊りもかけっこも全然していなかったりしていた我が子が、年中では練習して踊れるようになり、そして、年長ではとても楽しそうに踊っている上に、競技では他の友達を応援できるようになっている姿はまさに成長である。

また、かけっこのような個人競技だけではなく、運動会ではクラスやチーム単位のリレー競争、学年全体で披露する遊戯など、人と協力して達成していくものもある。仲間と頑張ることで他人を思いやる気持ちや連帯感が得られるであろう。人を応援できることもとても素敵なことである。親も一緒に参加する親子競争、玉入れ競技などもあるが、この時の子どもたちの顔ときたら、ひと際きらきらと楽しそうに輝いている。

筆者の子どもが通う幼稚園の運動会では、最後に年長の全員の子どもたちが参加するクラス対抗リレー競争がある。選抜ではなく、クラス全員が一生懸命に走ってバトンを繋ぐ姿には、大人の心をも感動させるとても熱いものがあった。人は人と関わることによって、自分一人でする以上のパワーがあるのだなと改めて感じたものだった。



参考資料 2：できなかった技（ブリッジ）を何度も練習することで努力や達成感を学ぶ

③ 様々な環境

中には運動することが好きではない子どももいるだろう。みんながみんな、運動が好きで得意でなくても構わない。運動が好きな子どもは得意なものをもっと伸ばしていけたらよいし、好きではないと感じる子どもは、嫌いにならないように、その子なりの好きな運動を見つけてあげたら良い。「好きこそものの上手なれ」ということわざがあるように、好きなものはどんどん上手になるのだ。

幼稚園には、運動会以外にも、お絵描きなどの作品展、劇を演じるお遊戯会、音楽会などの行事があり、その中からその子にとっての「好き」や「得意」を見つけられれば良い。子どもにとっての選択肢が「運動」ただ一つだけではないということ、それ以外にも様々な環境があるのだということを見せて経験させてあげることができるのも様々な行事があるねらいの一つである。もっとも、もし幼稚園や集団ということが好きでない子どもなら、幼稚園以外の環境も見せてあげればよいと筆者は思う。学校や会社や家庭なども、もしその環境をどうしても好きになれないのであれば、嫌いになって心と体の健康を損なうなる前に、違う環境を選択するのもいいだろう。これは子どもに限らず、大人にも言えることだ。

④ 言葉によるコミュニケーション

運動会へ向けての練習から本番までの過程を通して子どもは日常の生活の中にはない行事ならではのたくさんの新しい経験や感情を得ることができる。自分の考えや思いを伝えるためには言葉にして表現することが必要となる。運動会には大いにその機会がある。例えばマーチングではいろいろな種類の楽器に分かれて演奏することになるので、や

りたい楽器がある場合に、子どもの「〇〇がしたい」という思いを自分で言葉にして先生に伝えることも一つの成長に繋がる。また、家に帰って子どもと運動会の映像や写真を一緒に見ながら、その時の気持ちや感情を聞いてみるのも良いし、子ども自身が運動会でしたことを見に来ることができなかった親族や友人に伝えるのも立派なコミュニケーションの練習になる。年長児であれば、文字にして遠くに住むおばあちゃんなどへ手紙を書くのもいい経験と思い出になるだろう。そして、子どもからの言葉を受け取った大人も自分の想いをきちんと言葉にして子どもに伝えることは大切である。運動会の日の夜に「今日はとてもよくがんばったね!」とかけてあげるその言葉は子どもの自己肯定感を高める最高の褒め言葉である。



参考資料3：練習した成果を人前で発表することも貴重な体験と学びとなる

⑤ 言葉以外による表現

言葉以外による表現では、絵にかくことや、歌を歌ったり楽器を演奏したり、粘土や折り紙で制作をしたり、他の役になって演じることで表現することが挙げられる。運動会で行われることも多い楽器を使いながらの行進や演奏も表現力を養う一つの要素にあたる。楽器を触ったり、音を聞いたりすることから、外の風を感じたり匂いや色などをなどに気づくことまで、すべてが感性を高めることに繋がる。運動会のために取り組んできたことや参加したことで、子どもたちはそれぞれの何かを得たはずなので、それを言葉以外にも絵やダンスや音楽などを使って表現することまで繋げて行きたいものである。



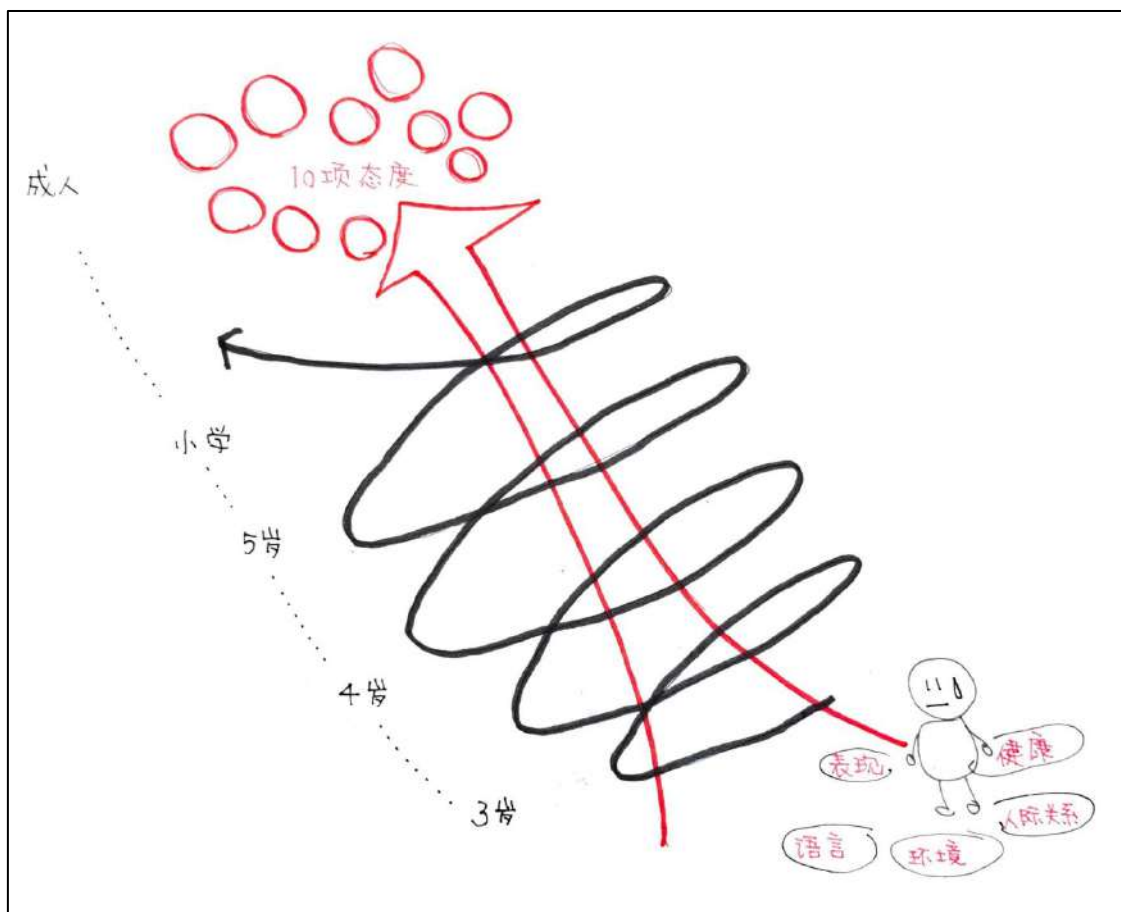
参考資料4：体験したことについて自分なり感性をもとに絵で表現する

何も考えずにいると、「準備が大変だった」や「楽しかった」だけで終わってしまう幼稚園生活の行事。しかしながら、よく考えてみることで、そこには実にたくさんの成長するためのねらいや要素が詰まっていることに気が付く。上にあげた五つの項目は、すべて、幼稚園教育要領に含まれている内容である。この五つの項目をさらに細かく分けて整理したものが「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」（以下※を参照）であり、これは文部科学省が2018年4月に改訂した幼稚園教育要領で重要なポイントとして位置づけられた。10の姿は幼稚園卒業時に急に現れるわけではなく、幼稚園で過ごす日々の生活や季節の行事などで触れる様々な経験を経て日常生活のいろいろな場面で見えてくる姿である。

また、これは幼稚園ですべてが達成されることが目標ではなく、この姿に向かって育てていこうという方向性を示した姿である。幼児期の教育は生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものである。参考資料5のイメージ図のように、「健康」「人との関わり」「環境」「言語」「表現」の五つの項目を園生活の中で様々な体験を繰り返し経験することで徐々に10の姿に向かって子どもが成長していく。筆者も含めて、周りにいる大人はこの五つの項目と10の姿を子どもの道しるとして子どもへ提示することで、子どもがより良い未来へ向かって進んでいけるよう見守っていきたいものである。

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）

- 1) 健康な心と体
- 2) 自立心
- 3) 協調性
- 4) 道徳性・規範意識の芽生え
- 5) 社会生活との関わり
- 6) 思考力の芽生え
- 7) 自然との関わり・生命尊重
- 8) 数量・図形、文字などへの関心・感覚
- 9) 言葉による伝えあい
- 10) 豊かな感性と表現



参考資料5：五つの項目を意識しながら園生活でたくさんの体験を経て10の姿へ向かって成長するイメージ

文 原田 捷子